

平成23年度学校腎臓病検診について

新潟市学校腎臓病検診判定委員会 池 住 洋 平

新潟市医師会の会員の皆様ならびに学校腎臓病検診の関係の方々には大変お世話になっております。

昨年のご報告にも記載させて頂きましたが、学校検尿制度がわが国に初めて法制度のもとで導入され、ほぼ40年が経過しようとしています。しかしながら、依然として毎年約3万人の末期腎不全患者が透析導入されており、その延べ人数は30万人を超えて参りました。このことから、学校検尿の意義について、特に海外からは批判的な意見も多いのが現状です。このことは、法制度のもとに全国的に学校検尿を実施しているのが、未だにわが国のみであることから伺われます。このような批判は、学校検尿の有用性を示唆するエビデンスがわが国からほとんど発信できていないことに大きな原因があると言われています。このような学校検尿制度を取り巻く背景のもと、九州や中部地方など国内のいくつかの地域では、学校検尿に関わる団体が中心となって学校検尿システムの見直しや、マニュアルの作成により診断基準の画一化が進められています。また日本学校保健会が中心となって、昭和54年に初版が作成された「学校検尿のすべて」が、平成24年度には改訂版が発行され、検診で異常が確認された児童の管理基準も見直されました。

新潟市におきましても学校腎臓病検診をより有効に活用すべく、平成21年度の検診から診断名の統一など疫学データの収集を容易にする試みを始めております。さらに、平成22年度から調査項目に「出生体重」の欄を設け、出生体重と腎疾患発症の関連を調査する試みを開始しています。これらの結果を踏まえ、平成23年度の新潟市学校腎臓病検診の結果を報告させて頂き

ます。対象は新潟市内の小学校から高等学校に通う6歳～18歳の児童・生徒です。

1. 1・2次検尿結果およびメジカルセンター実施1次精密検査結果(表1-3)

平成23年度の対象者は、小学生41,711名、中学生21,589名、高校生1,724名の計65,024名で、前年度の65,826名から802名減少しています。H17年に新潟市が合併し、総人口81万人に上りましたが、その後6歳～18歳の就学年齢の児童を含む人口は継続して減少しており、受検者数にも影響しているものと考えられます。1次検尿の受検率は99.3%でほぼ例年通りの安定した受検率を保っています。

1次検尿、2次検尿の異常頻度はそれぞれ総受検者の3.8%(2,469名)、0.9%(588名)であり、前年の3.5%(2,265名)、0.77%(506名)より若干増加しました。また、小学生では1次検尿、2次検尿の異常頻度が3.0(H22年:2.8) %、0.78(H22年:0.76) %であるのに対し、中学生では5.2(H22年:4.5) %、1.15(H22年:0.80) %と小学生、中学生とも増加し、例年と同様に中学生の方が異常の発見頻度が高いという傾向がみられています。

1次精密検査にメジカルセンターを受診したのは433名で、そのうち異常ありと判定されたのは308名、総受検者の0.5%です(表1)。1次精密検査異常者のうち303名(98.4%)は特に生活制限を行わない管理区分E判定、残りの5名(1.6%)についても、軽度の運動制限を行うD判定でした。これらも例年通りの傾向にあります。

尿所見異常の内訳は、尿沈渣赤血球5-50個/視野の軽度血尿単独例(血尿群I)が156名、

51個以上／視野の高度血尿例(血尿群Ⅱ)であった8名と合わせ、血尿単独例が164名(54.1%)と最も多く、これまでと同様の傾向ですが、H22年度の180名(61.9%)と比較すると減少しています(表2)。一方、蛋白尿単独例は109名(36.0%)と、H22年度の73名(25.1%)よりも増加しました。最も腎炎の可能性が高い血尿・蛋白尿両者陽性例は24名(7.9%)で、H19年度から12名(5.0%)、H20年度21名(7.2%)、H21年度28名(10.7%)、昨年 H22年度33名(11.3%)と増加傾向にあったものが、H23年度は減少しています。

血液検査では例年通り ASO 高値例が最も多く、66例(76.7%)でしたが急性糸球体腎炎の活動期にみられる補体値の異常(低下)が認められた例はありませんでした(表3)。また、このような血液検査上の異常を示す例の中に、尿所見異常を全く認めない例が少なからず含まれており、今後このような例の取り扱いあるいは検査の必要性を含めて検討が必要と考えられます。

2. 医療機関実施の検診結果(表4、5)

要1次精密検査者588名中、メジカルセンターを受診せず、他の医療機関で精密検査を受けた142名に、学校側精検希望者107名を加えた249名のうち、尿所見の異常がみられたのは209名(83.9%)で、多くは以前から医療機関で治療または経過観察を行われている例と考えられます。管理区分はメジカルセンター受検例と同様に201名(96.2%)がE判定と最も多く、次いでD判定が5名(2.4%)、C判定が3名(1.4%)見られましたが、運動が禁止されるAやB判定は H23年度にはみられませんでした(表4)。

H21年度から行っている診断病名の整理ですが、依然として血尿と無症候性血尿などの重複病名がみられているものの、これまでであった蛋白尿の診断名は無症候性蛋白尿に統一され、病名整理が大分浸透してきた感があります(表5)。要管理例209名のうち診断未確定の暫定診断例が135名(64.6%)みられ、血尿群と無症候性血尿を合わせた血尿単独例が125名(92.6%)と大半を占めています。この他、ネフローゼ症候群など、学校腎臓病検診では異常

がなくとも、腎疾患として医療機関で管理されていることから、学校側希望として受検している例も含まれていると考えられ、今後このような症例の病名について整理を進めていきたいと考えています。今回は、医療機関実施の調査においても、低出生体重の欄を設けました。未記入者が依然多いため正確なデータではありませんが、低出生体重との関連は次項3、4の中で合わせて解説したいと思います。

3. 2次精検受診者追跡調査結果および出生体重との関連(表6～9)

1次精密検査にて要2次精査となった308名のうち、医療機関を受診したのは260名(84.4%)であり、このうち134名(51.5%)が要管理となっておりますが、いずれも管理指導区分はE判定の評価となっています(表6)。

「現況」をみますと、「来院しなくなった」例が1名のみで、全体的には要管理と判定された例については市内の医療機関でしっかりと管理されていると考えられます。「転医」については、転居などに伴う新潟市・県外への移動に伴うもの、またキャリアオーバー例なども含まれると考えられますが、詳細は明らかではありません(表7)。

追跡調査を行った260名の診断名を表8に示しました。管理不要例は126名、要管理例134名のうち診断未確定例(暫定診断例)が117例(87.3%)を占めており、その多くは血尿単独例となっています。生理的な蛋白尿である体位性蛋白尿は51名、全体の19.6%を占めておりますが、そのうち47名(92.2%)は管理不要となっています。要管理となった蛋白尿単独例と合わせた無症候性蛋白尿例66例のうち体位性蛋白尿の占める割合は77.3%となり、「学校検尿で発見される蛋白尿単独例の7割が生理的蛋白尿である」と言われる教科書に記載される状況は現在もまだあるようです。

H22年度から新規に設けた調査項目であります、出生体重が2,500g未滿または在胎36週未滿の早期産例については、暫定診断125例中9例(7.2%)で H22年度の136例中20例(14.7%)と比較しほぼ半分減少しています。一方、体位性蛋白尿の診断例51名中6名(11.8%)が低

出生体重児という結果が得られ、わが国の全出生数に占める低出生体重児の割合が約9.5%であることを考えますとこの数字は高値と言えます。前年度は10.0%であったことを踏まえ、低出生体重と体位性蛋白尿との間に何らかの因果関係が存在する可能性が示唆されます。以前、私ども新潟大学小児科で過去に腎生検を行った症例に占める低出生体重児の割合を疾患別に検討したところ、二次性の巣状糸球体硬化症と診断された症例の実に33%が低出生体重であることが明らかになっております。このような結果を合わせて考えますと、本来なら生理的蛋白尿と考えられているこれら体位性蛋白尿の中に、実は糸球体疾患例が混在している可能性を考えさせる結果ともいえます。体位性蛋白尿の多くは「管理不要」となっており、体位性蛋白尿の診断は、私どもはもう少し慎重になるべきなのかも知れません。

4. メジカルセンターおよび医療機関実施結果の合計（表9、10）

精密検査をメジカルセンター以外の医療機関で行った249名（表5）とメジカルセンターで要2次精密検査と判定され医療機関を受診した260名（表8）の計509名の集計結果を表9に示しました。診断未確定例（暫定診断例）が266名（52.3%）おり、血尿単独群、無症候性血尿に家族性良性血尿を合わせた血尿単独例が計253名（49.7%）を占めており、次いで無症候性蛋白尿に体位性蛋白尿例を加えた蛋白尿単独例が82名（16.1%）で、このうち体位性蛋白尿は蛋白尿単独例の68.3%を占めており、全体としても学校検尿で発見される蛋白尿単独例の7割は生理的な蛋白尿である体位性蛋白尿と、以前から報告されている頻度に一致します。依然として体位性蛋白尿が早朝第一尿で行う学校腎臓病検診で高頻度に検出されている事実は、就寝前の排尿が依然として徹底されていないことを示唆する結果かと思えます。一方、低出生体重児の検討から、今回は医療機関実施分を合わせても体位性蛋白尿に占める低出生体重児は56名中7名（12.5%）と全国の低出生体重児9.5%を上回っており、前述しましたように体位性蛋白尿の診断自体が適正に行われているかどうか

か、今後慎重に検討する必要があるかと思えます。また、診断未確定の蛋白尿単独例や血尿・蛋白尿両者陽性例が合わせて33名みられており、進行性疾患の可能性を考慮して慎重に経過をみていく必要があると考えられます。

全体509名のうち343名（67.4%）が要管理と判定されておりますが、管理指導区分は335名（97.7%）がE判定で、5名がD判定、C判定が3名となっており、高度な運動制限が必要なA、B判定例はありませんでした（表10）。

5. H23年度の新規診断例（表11）

H22年度から実施している、新規発症例（小学校1年以前に尿所見異常の既往がない例、または小学校2年以上で前年度までに尿所見異常を指摘され要管理となった既往がない例）の検討ですが、表10でH23年度に要管理となった343名中133名（38.7%）が今年度初めて尿所見異常を指摘されていることが分かりました。新潟市の検診対象65,024名に133名（0.20%）、すなわち6歳～18歳の児童1,000人に約2人の頻度となり、これは前年度の結果とほぼ同じです。今後はこのような学校検尿発見例の予後について追跡をしていきたいと考えております。

6. 今後の展望

冒頭で述べましたように、今、学校腎臓病検診のあり方が問われています。非常に多くの費用が使用されているのにも関わらず、見合った成果が挙げられているのか明確なデータが示されて来なかったのがその大きな要因です。新潟市では、学校検尿制度で得られるデータを出来る限り有効に活用しようと、H21年度からはまず診断病名の整理を、H22年度からは、新規診断例（発症例）の検出および出生体重との関連について検討を開始しました。いずれの検討も始まったばかりであり、現段階では国外に発信するには不十分ではありますが、興味深いデータが集まり始めています。今後はこれらのデータのフィードバック、さらに学校検尿のコストパフォーマンスを向上させるための努力が必要と考えております。皆様のご協力をお願いすることも多いかと思えますが、引き続き何卒宜しくお願い致します。

平成23年度 学校腎臓病検診結果

○メジカルセンター実施（表1～3）

表1 受検数及び異常数

	1 検 対象数	1 次検尿		2 次検尿		1 次精検受診数 (メジカルセンター)			1 次 精 検 結 果									
		受検数 (A)	異常数 (C)	受検数 (D)	異常数 (E)	2 検 異常数 (F)	学校 希望数 (G)	計 (H)	異 常 あ り								管理 不要 (K)	
									総数		管理指導区分							
									数 (I)	腎尿路疾 患既往の ある者 (再掲) (J)	A	B	C	D	E			
小学校	男	21,371	21,335	410	391	93	68				68	56	20					1
	女	20,340	20,317	844	823	232	156	1	157	121 (1)	46 (1)					1	120 (1)	36
	計	41,711	41,652	1,254	1,214	325	224	1	225	177 (1)	66 (1)				2	175 (1)	48	
中学校	男	11,126	11,032	475	459	104	78		78	49	12				2	47	29	
	女	10,463	10,374	648	623	142	117		117	76	21				1	75	41	
	計	21,589	21,406	1,123	1,082	246	195		195	125	33			3	122	70		
高校	男	768	644	36	32	6	4		4	2	2					2	2	
	女	956	838	56	52	11	9		9	4	1					4	5	
	計	1,724	1,482	92	84	17	13		13	6	3					6	7	
合計		65,024	64,540	2,469	2,380	588	432	1	433	308 (1)	102 (1)				5	303 (1)	125	
%			B/A 99.3	C/B 3.8	D/B 3.7	E/B 0.9	F/E 73.5		H/B 0.7	I/B 0.5							K/H 28.9	

() 学校希望

表2 1次精検の尿所見（実人数）

	小 学 校		中 学 校		高 校		計
	男	女	男	女	男	女	
蛋 白 尿	10	36	22	37	1	3	109
血 尿 群 1	43	66	23	23	1		156
血 尿 群 2	1	3		4			8
蛋白尿・血尿	2	12	3	6		1	24
尿路感染症		2		3			5
尿 糖				1			1
計	56	119	48	74	2	4	303

表3 1次精検の血液検査（延べ人数）

	小 学 校		中 学 校		高 校		計
	男	女	男	女	男	女	
A S O 上 昇	14	28	8	14	2		66
総コレステロール増加	2	3	2	5		1	13
総 蛋 白 減 少	4	1		2			7
計	20	32	10	21	2	1	86

○ 医療機関実施（表4、5）

表4 受診数及び異常数

		メジカルセンター 1次精検未受診数			受診数			2次精検結果							管理 不要 総数 (K)
		2検 異常者	学校 希望者	計	2検 異常者	学校 希望者	計	総数		異常あり					
								管理指導区分		A	B	C	D	E	
								数(I)	腎尿路疾患既往のある者 (再掲)(J)						
小学校	男	25	30	55	24	30	54	46 (26)	22 (16)			1	2 (2)	43 (24)	8 (4)
	女	76	38	114	74	38	112	93 (32)	43 (12)			1 (1)	2 (1)	90 (30)	19 (6)
	計	101	68	169	98	68	166	139 (58)	65 (28)			2 (1)	4 (3)	133 (54)	27 (10)
中学校	男	26	18	44	20	18	38	37 (18)	21 (12)				1	36 (18)	1
	女	25	16	41	20	16	36	26 (14)	12 (8)					26 (14)	10 (2)
	計	51	34	85	40	34	74	63 (32)	33 (20)				1	62 (32)	11 (2)
高校	男	2		2	2		2	1	1			1			1
	女	2	5	7	2	5	7	6 (4)	2 (1)					6 (4)	1 (1)
	計	4	5	9	4	5	9	7 (4)	3 (1)			1		6 (4)	2 (1)
合計	156	107	263	142	107	249	209 (94)	101 (49)			3 (1)	5 (3)	201 (90)	40 (13)	

※ () : 学校希望者の再掲

○医療機関実施

表5 精検結果

病名	要 管 理							管 理 不 要						合計	出生体 重・妊娠 期間異常 (再掲)	
	小学校		中学校		高 校		計	小学校		中学校		高 校				計
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女			
暫定診断名																
血 尿 群 1	16	47	18	16		2	99	1	2	1	1			5	104	6
血 尿 群 2	1	4					5							0	5	
無 症 候 性 血 尿	4	12	3	2			21							0	21	1
蛋 白 尿							0				1			1	1	
無 症 候 性 蛋 白 尿	1	5	3	1			10							0	10	
計	22	68	24	19	0	2	135	1	2	1	2	0	0	6	141	7
生理的蛋白尿																
体 位 性 蛋 白 尿	1	1	1	0	0	0	3	1	0	0	0	1	0	2	5	1
無症候性血尿を呈するもの																
家 族 性 良 性 血 尿	1	4	1	3			9	1	1					2	11	
菲 薄 基 底 膜 症 候 群		1					1							0	1	
尿 路 結 石	1						1							0	1	
計	2	5	1	3	0	0	11	1	1	0	0	0	0	2	13	
糸球体疾患（原発性、二次性、遺伝性を含む）																
急 性 糸 球 体 腎 炎	2	2		1		1	6							0	0	
メサンギウム増殖性糸球体腎炎		2	1			1	4							0	4	
I g A 腎 症	4	6		2		1	13							0	13	1
紫 斑 病 性 腎 炎	2	2	1				5							0	5	
ネ フ ロ ー ゼ 症 候 群	2	1	5			1	9							0	9	
ア ル ポ ー ト 症 候 群		1			1		2							0	2	
ネ イ ル ・ バ テ ラ ー 症 候 群		1	1				2							0	2	1
計	10	15	8	3	1	4	41	0	0	0	0	0	0	0	41	2
尿管・間質障害																
特 殊 性 尿 細 管 性 蛋 白 尿 症	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
腎・尿路奇形に起因する疾患・慢性腎不全を呈するもの																
腎 不 全		1	1				2							0	2	
水 腎 症	3			1			4		1					1	5	
尿 管 狭 窄	1						1	1						1	2	
膀 胱 尿 管 逆 流	1	1					2							0	2	
尿 路 感 染 症							0	1	1					2	2	
低 異 形 成 腎	1	1	1				3							0	3	
計	6	3	2	1	0	0	12	2	2	0	0	0	0	4	16	
その他																
腎 盂 拡 大 ・ 変 形	2						2							0	2	
溶 血 性 尿 毒 症 症 候 群		1					1							0	1	
萎 縮 腎	1						1							0	1	
そ の 他	1						1	1						1	2	
計	4	1	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	1	6	
異常なし							0	2	14	0	8	0	1	25	25	4
合 計	46	93	37	26	1	6	209	8	19	1	10	1	1	40	249	14

○2次精密検査受診者 追跡調査（表6～9）（メジカルセンター受診後の状況）

表6 受診状況と管理指導区分

		2次精密検査		要 管 理					管理不要	
		対象数	受診数	総数	管理指導区分					
					A	B	C	D		E
小学校	男	56	51	34					34	17
	女	121	106	59					59	47
	計	177	157	93					93	64
中学校	男	49	38	16					16	22
	女	76	62	24					24	38
	計	125	100	40					40	60
高校	男	2	1							1
	女	4	2	1					1	1
	計	6	3	1					1	2
合計		308	260	134					134	126

表7 現 況

		要治療・経過観察				管理不要		
		している	来院しなくなった	転医	計	受診不要	治癒した	計
小学校	男	33		1	34	17		17
	女	52	1	6	59	47		47
	計	85	1	7	93	64		64
中学校	男	14		2	16	22		22
	女	23		1	24	36	2	38
	計	37		3	40	58	2	60
高校	男					1		1
	女	1			1	1		1
	計	1			1	2		2
合計		123	1	10	134	124	2	126

○メジカルセンター実施の追跡

表8 病 名

病 名	要 管 理							管 理 不 要						合計	出生体 重・妊娠 期間異常 (再掲)	
	小学校		中学校		高 校		計	小学校		中学校		高 校				計
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女			
暫定診断名																
血 尿 群 1	27	43	12	11			93	1	4		1			6	99	8
血 尿 群 2		1		1			2							0	2	
無 症 候 性 血 尿		1					1				1			1	2	
蛋 白 尿				1			1							0	1	
無 症 候 性 蛋 白 尿	1	7	1	4			13				1			1	14	
蛋 白 尿・血 尿	3	2	2				7							0	7	1
計	31	54	15	17	0	0	117	1	4	0	3	0	0	8	125	
生理的蛋白尿																
体 位 性 蛋 白 尿	1	1	0	2	0	0	4	5	14	8	19	1	0	47	51	6
無症候性血尿を呈するもの																
家 族 性 良 性 血 尿	2		1	2			5	1	3					4	9	1
ナットクラッカー現象						1	1							0	1	
計	2	0	1	2	0	1	6	1	3	0	0	0	0	4	10	
糸球体疾患（原発性、二次性、遺伝性を含む）																
急 性 糸 球 体 腎 炎		1					1							0	1	
I g A 腎 症							0							0	0	
紫 斑 病 性 腎 炎							0							0	0	
ネフローゼ症候群							0							0	0	
計	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
腎・尿路奇形に起因する疾患・慢性腎不全を呈するもの																
尿 路 感 染 症							0			1	1			2	2	
腎 嚢 胞				1			1							0	1	
低 異 形 成 腎				1			1							0	1	
計	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	0	2	4	
その他																
膿 尿							0		1	1				2	2	
家 族 性 腎 炎		2					2							0	2	2
突 発 性 腎 出 血							0	1						1	1	
総コレステロール増加		1					1							0	2	
そ の 他				1			1		2					2	3	
計	0	3	0	1	0	0	4	1	3	1	0	0	0	5	9	
異常なし								9	23	12	15	0	1	60	60	6
合 計	34	59	16	24	0	1	134	17	47	22	38	1	1	126	260	24

○メジカルセンター実施と医療機関実施の合計（表9、10）

表9 病 名

病 名	要 管 理							管 理 不 要						合計	出生体 重・妊娠 期間異常 (再掲)	
	小学校		中学校		高 校		計	小学校		中学校		高 校				計
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女			
暫定診断名																
血 尿 群 1	43	90	30	27		2	192	2	6	1	2			11	203	14
血 尿 群 2	1	5		1			7							0	7	
無 症 候 性 血 尿	4	13	3	2			22				1			1	23	1
蛋 白 尿				1			1				1			1	2	
無 症 候 性 蛋 白 尿	2	12	4	5			23				1			1	24	
蛋 白 尿・血 尿	3	2	2				7							0	7	1
計	53	122	39	36	0	2	252	2	6	1	5	0	0	14	266	16
生理的蛋白尿																
体 位 性 蛋 白 尿	2	2	1	2	0	0	7	6	14	8	19	2	0	49	56	7
無症候性血尿を呈するもの																
家 族 性 良 性 血 尿	3	4	2	5			14	2	4					6	20	1
菲 薄 基 底 膜 症 候 群		1					1							0	1	
尿 路 結 石	1						1							0	1	
ナットクラッカー現象						1	1							0	1	
計	4	5	2	5	0	1	17	2	4	0	0	0	0	6	23	1
糸球体疾患（原発性、二次性、遺伝性を含む）																
急 性 糸 球 体 腎 炎	2	3		1		1	7							0	7	
メサンギウム増殖性糸球体腎炎		2	1			1	4							0	4	
I g A 腎 症	4	6		2		1	13							0	13	1
紫 斑 病 性 腎 炎	2	2	1				5							0	5	
ネ フ ロ ー ゼ 症 候 群	2	1	5			1	9							0	9	
ア ル ポ ー ト 症 候 群		1			1		2							0	2	
ネ イ ル ・ パ テ ラ ー 症 候 群		1	1				2							0	2	1
計	10	16	8	3	1	4	42	0	0	0	0	0	0	0	42	2
尿細管・間質障害																
特 発 性 尿 細 管 性 蛋 白 尿 症	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
腎・尿路奇形に起因する疾患・慢性腎不全を呈するもの																
腎 不 全		1	1				2							0	2	
水 腎 症	3			1			4		1					1	5	
尿 管 狭 窄	1						1	1						1	2	
膀 胱 尿 管 逆 流	1	1					2							0	2	
尿 路 感 染 症							0	1	1	1	1			4	4	
低 異 形 成 腎	1	1	1	1			4							0	4	
腎 囊 胞				1			1							0	1	
計	6	3	2	3	0	0	14	2	2	1	1	0	0	6	20	
その他																
膿 尿							0		1	1				2	2	
家 族 性 腎 炎		2					2							0	2	2
腎 盂 拡 大 ・ 変 形	2						2							0	2	
突 発 性 腎 出 血							0	1						1	1	
溶 血 性 尿 毒 症 症 候 群		1					1							0	1	
萎 縮 腎	1						1							0	1	
総コレステロール増加		1					1							0	1	
そ の 他	1			1			2	1	2					3	5	
計	4	4	0	1	0	0	9	2	3	1	0	0	0	6	15	2
異常なし								11	37	12	23		2	85	85	10
合 計	80	152	53	50	1	7	343	25	66	23	48	2	2	166	509	38

表10 管理指導区分

		要 管 理						管理 不要	合計
		A	B	C	D	E	計		
小学校	男			1	2	77	80	25	105
	女			1	2	149	152	66	218
	計			2	4	226	232	91	323
中学校	男				1	52	53	23	76
	女					50	50	48	98
	計				1	102	103	71	174
高 校	男			1		0	1	2	3
	女					7	7	2	9
	計			1	0	7	8	4	12
合 計				3	5	335	343	166	509

表11 総括（メジカルセンター受診後追跡＋他医療機関受診）内の初診

		1 検 対象数 (A)	1次検尿		2次検尿		精検受診数					
			受検数 (B)	異常数 (C)	受検数 (D)	異常数 (E)	2 検異常数 (F) (G)		学校希望数 (H) (I)		計 (J) (K)	
							初診	初診	初診	初診		
小学校	男	21,371	21,335	410	391	93	75	48	30	4	105	52
	女	20,340	20,317	844	823	232	179	94	39	7	218	101
	計	41,711	41,652	1,254	1,214	325	254	142	69	11	323	153
中学校	男	11,126	11,032	475	459	104	58	36	18	3	76	39
	女	10,463	10,374	648	623	142	82	55	16	2	98	57
	計	21,589	21,406	1,123	1,082	246	140	91	34	5	174	96
高 校	男	768	644	36	32	6	3	2			3	2
	女	956	838	56	52	11	4	1	5	1	9	2
	計	1,724	1,482	92	84	17	7	3	5	1	12	4
合計	65,024	64,540	2,469	2,380	588	401	236	108	17	509	253	
%		B/A	C/B	D/B	E/D		G/F		I/H		K/J	
		99.3	3.8	3.7	24.7		58.9		15.7		49.7	

精検結果											
異常あり											異常なし
総数		管理指導区分								管理不要	
(L)	初診 (M)	A	B	C		D		E		(N)	初診 (O)
				初診	初診	初診	初診				
80	35			1	1	2	1	77	33	25	17
152	57			1	1	2	1	149	55	660	44
232	92			2	2	4	2	226	88	685	61
53	18						1	52	18	23	21
50	22							50	22	48	35
103	40						1	102	40	71	56
1				1						2	2
7	1							7	1	2	1
8	1			1				7	1	4	3
343	133 M/L 38.7			3	2	5	2	335	129	166	120 O/N 72.3

ここでの初診とは・・・ ※小1で既往歴の記入がない

※小2以上で、前年度までに要管理になったことがない